

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100144		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム石動		
所在地	神埼郡吉野ヶ里町石動3210番地		
自己評価作成日	平成23年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成23年12月16日	外部評価確定日	平成24年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>北の方の脊振の山がすぐ近くに見え、美しい自然に囲まれた環境で民家を改築した、木造二階建ての暖かみのある建物の事業所です。地域資源を活用し地域の一員として敬老会、年2回のクリーンデイ、総会に参加等、地域の方としっかりした友好関係が築かれています。また事業所でのバーベキュー会には21名もの地域の方の参加、消防訓練の時も雨の中手伝って下さり、コミュニケーションができ、気安く会話を交わします。利用者の方は事業所内での音楽リハビリ、カラオケ等に参加されています。グループホーム石動が目指す所は、地域に根付いた利用者様本意のケアであり利用者各人がその人らしさを発揮し、自宅に代わる居場所づくりに努めております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>豊かな自然に囲まれた、脊振山麓の集落に位置する民家改修型の事業所であり、建物の内外には、民家の持ち味を活かした心和む家庭的雰囲気漂っている。それぞれの居室からは、四季折々の庭の樹木や周辺の光景も楽しむことができる。代表者を始め職員は、地域密着型サービスの意義と役割を認識し、理念に沿った利用者本位のその人らしい暮らしの支援に一丸となって取り組んでいる。事業所は地域の一員として根付いており、近隣住民とは日常的に物心両面にわたる密接な交流を持っている。災害時の避難訓練には、区長を始め多数の住民の参加が得られており、万一時の役割をも認識してもらっている。また、運営推進会議にも各種の地域代表の参加が得られ、サービス向上に繋がる有意義な話し合いがなされている。日々の暮らしでは同一法人のデイサービス等と連携し、利用者の楽しみである外出や残存機能の維持向上への支援にも積極的に取り組んでおり、毎日のように外出の機会がつけられている。益々の発展が期待される事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスをふまえた理念を作り、話し合いに基づき、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	利用者が地域の中で最後まで、本人本位の、その人らしい暮らしが続けられる支援を目指した理念を作成している。職員は毎朝理念を唱和し、意識付けを図っている。代表者は、会議や業務の中で機会あるごとに理念について話し、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入し、地域の敬老会、総会、清掃活動に参加し、また事業所のふれあい祭り、七夕祭り等に参加してもらっている。	事業所は地域の一員として溶け込んでおり、日常的に近隣住民や区長等の来訪があり、利用者とも顔馴染みである。事業所の行事にも多くの住民の参加が得られている。職員は地区の総会や清掃活動等にも参加をし、敬老会には利用者と一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は地域の方参加の介護者教室、敬老会の講演等、介護の在り方の話し合いを持っている。又清掃活動、バーベキュー会、消防訓練等見せる介護をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進委員会を開催し、運営実態や課題、又ふれあい祭り等に委員の方が参加され活発な意見を交わし運営に反映されている。	家族を始め行政職員や複数の地域代表者の参加を得て、2ヶ月に1回開催されている。会議では、運営状況や行事、事業所の課題等について積極的な意見交換が行われサービス向上に活かされている。外部評価の結果についてもきちんと文書化し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との交流を密にし、町長はじめ敬老会等の行事に招待し利用者の失踪時の捜索、利用者の紹介等を受け、相互に協力し連携を密にしている。	町や地域包括支援センターの担当者とは、日頃から密に情報交換や課題等の相談を行っている。また、事業所も行政の行事等に参加協力し協働関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の各部屋や玄関には施錠はなく、職員による見守りを徹底し、帰宅願望については、制止するのではなく、さりげなく声掛けをし、外出については同行している。外出は地域の人の通報もあり協力してもらっている。	職員は拘束の弊害を理解し、精神的・身体的拘束のない本人本位の自由な暮らしを支援している。日中、玄関は施錠しておらず、職員間の連携を密にして見守っており、外出気配時にも抑止等せずにさりげなく付き添っている。地域住民による見守りの協力も得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止について研修会、勉強会で学ぶ機会を持ち、利用者の虐待が見逃されないよう注意を払い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修会や勉強会に参加し日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び合う。来訪者、関係者とコミュニケーションを取りあい活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は重要事項について十分な説明、話し合いを行っている。家族、利用者の疑問点、不安を含めて理解、納得を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々家族の来訪時や各種行事等で常に問いかけ何でも気軽に話して下さるようにコミュニケーションを図っている。また家族会の時にアンケートを実施したり、玄関に意見箱の設置なし、出された意見、要望等はミーティングにて話し合い、反映している。	面会時や家族会等、家族の来訪時には必ず声をかけ、何でも言ってもらえるように雰囲気づくりにも工夫している。家族会ではアンケートも実施しており、出された意見や要望等については、職員間で話し合い、運営に反映している。重要事項説明書には、苦情受付窓口をきちんと明示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員の疑問や意見、要望を言いやすい職場作りに努め通常勤務や月1回のカンファレンスにて行事等反省会を行い職員の意見を聞き反映している。また年に2回職員との個人面談を行っている。	代表者は普段から職員との意志の疎通を心がけており、毎月の職員会議では、一人ひとりに思いや意見等を言ってもらい運営にも反映している。また、年に2回、代表者と管理者で個人面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々人の勤務態度、業務の自己評価に基づく職員との面談や業務管理シート等により、把握し人事考課、賞与に反映させ職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為の外部研修を始め法人内でも新人、中堅研修を取り入れ一人ひとりのケアの質を高めて行くように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の職場と合同勉強会又は講師を招いて学ぶ等サービス向上に努めている。研修先にてグルーブトークや訪問にて交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望、不安な事を管理者、ケアマネージャー、職員共に聞き把握し、必要とされる支援を行い、安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に管理者やケアマネージャーが家族と話し合い、施設内を見学して頂いている。日常生活や介護の内容等理解して頂き、納得され入所されている。また、入所当初は家族の訪問をして頂き、介護の実態や利用者の状況を把握、理解して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネージャーが本人、家族とよく話し合い、必要としている支援を見極め、職員との介護の共有をなし、法人内外のサービスの利用を含めサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者より料理や畑仕事等で教えて頂く事が多く、職員と共にお互いが支え合える関係が日頃より見られ、その関係を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念を基本とし、家族と連絡をよく取り、面会にもよく来てもらいコミュニケーションを図り、面会、受診、外泊、家族会などの機会において、共に本人を支えて行くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の気持ちを尊重し、家、故郷、墓参り、行きつけの店、病院、美容室など訪問したり、親しい友人、親類を訪ねたりし、人や場所との関係が途切れない様に行なっている。	職員は、利用者の馴染みの場所や人等を把握し関係の継続を支援している。お寺参りや家族の演奏会、行きつけの商店・美容院等と一緒に掛けたり、家族の協力を得て、自宅への外出、外泊も支援している。また、友人等の来訪時には一緒に歓迎し、ゆっくりと気兼ねなく過ごしてもらえるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりを把握し、尊重した上で座席の工夫や家事を行う上で分担して行えるように工夫し、すべての利用者同士が関わるように工夫している。また不足している所を補ったりと支え合っている関係が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が退所されてからも、家族と連絡を取ったり相談や要望等に応じ、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で利用者一人一人の思いや希望・意向を見出し、把握したり、家族からも情報に努め、収集、困難な場合であっても希望に応じ出来るだけ対応できるように努めている。	毎日、利用者とゆっくりと向き合う時間を持ち、会話の中の一言や行動等から希望や意向等を把握している。意志の疎通が困難な場合には、表情や家族からの情報等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人などから、これまでの生活歴や環境等、様々な情報を収集すると共に日常の会話の中でも把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個人の希望、心身の状況の把握に努め、気持ちに寄り添いながら、毎日の申し送りやケース記録、連絡ノートを活用し、またカンファレンスにおいても現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や意欲向上・意思の尊重を念頭に置き、家族の意見や希望も反映しながらカンファレンスで意見を出し合いながら情報を共有し介護計画を作成している。	本人や家族の希望・意見等を確認して関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。3ヶ月ごとに評価を行い、現状に沿った介護計画で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気付きは、ケース記録と介護計画に基づいたケアチェック表で結果を記入している。また、排泄チェック表を作成し、毎日の実践に活かしている。カンファレンスで意見交換をしながら情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスではなく臨機応変に対応できる支援を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民、商店、医療機関を把握し利用者が地域住民と関わる事により地域に根付いた日常を営み安全で豊かな生活を行えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は各利用者毎に、かかりつけの医療機関またはご家族の希望される医療機関で行なっている。看護師等により主治医との情報交換も密に行なっている。急患の際の往診体制も計れるようにしている。	本人や家族の希望されるかかりつけ医の受診がなされている。通院は基本的に家族の付添としているが、家族等の状況によっては職員が同行し、適切な診療が受けられるように支援している。協力医は24時間対応可能であり、安心した受診体制がつけられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常勤務を通して容態の変化、健康状態を把握して看護職員に情報提供し、的確な処置ができるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際、病状や体力、年齢等に応じて適切な治療をご家族の意見を尊重し、安心して治療に専念できるように医療機関と連携し支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に重度化した際の介護、ターミナルケアについて明記している。ご家族、医師、看護師と話し合いを行い看護、介護の在りかた方針を共有して、地域関係者と共に支援している。	入居時に、本人や家族に対し、重度化や終末期に事業所が対応できる支援について説明し、意思の確認を行っている。重度化や終末期の支援を要する場合には、段階に応じて家族等の意思の確認を行い、関係者で方針を共有しながら支援に当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は消防署においてAEDの取扱い方心臓マッサージ、人工呼吸などの救命講習を受け知識技能の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜火災を想定した避難訓練を年に2回地域住民の参加協力のもと行なっている。消火器にて初期消火を出来るように取り組み、地震・水害については町の防災無線を取り入れている。	年に2回、昼夜の火災を想定した消火・避難等の訓練を実施しており、消防署や多くの地域住民の参加協力も得られている。また、参加された住民は役割も認識されている。地震対策では、筆筒等の設置場所や転倒防止策が検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を失わせない支援を行う。その為排泄入浴介助を行う際には、本人の羞恥心を損なわないようにしたりホーム便りや、研修資料等への使用の可否は、本人や家族の同意を得るなど、本人の意思やプライバシーを尊重した介護を行う。	職員は利用者一人ひとりを尊重し、笑顔でゆっくりと声をかけたり、利用者の持てる力を最大限にいか活かした支援を行っている。ホーム便り等への写真掲載は家族の同意を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に基づいた日常生活が送れるよう、本人の要求、希望を尊重した支援を行う。介護に当たる職員は、本人の自己決定が出やすい状況を作り、又決定するまで待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の流れに添いながらも、利用者一人ひとりの暮らしのペースが守れるように、利用者の意思を尊重した対応を行う。また日常の暮らしの中に刺激を与える目的で外食や行事への参加を促しより楽しい生活を送って頂けるよう支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約二ヶ月に一回美容室からの来園を計画している。散髪以外に、希望があれば、パーマや染色等も可能であり、個性を大切にしている。その他、男性は髭剃り女性はつめのケアまで一人ひとりの身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を引き出す目的で、食事の準備から片づけまで、職員と共に行っている。特に女性の利用者は昔を思い出しながら、楽しく準備され、生きがいに繋がっている。又一人ひとり落ち着いて楽しく食事出来るよう配慮したり、利用者の意見を取り入れ普段と違った食事環境を設ける為に外食の機会を設けている。	利用者の希望にも配慮しながら献立を作成している。職員は、食材の下ごしらえや味見、盛り付け、後片付け等を利用者と一緒に行っている。食事の時は、職員も一緒に同じものを食べ、一人ひとりのペースで安心して食事を楽しんでもらえるように支援している。副食の形態には誤嚥予防への配慮も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記録し、全職員が把握できるようにしている。又法人内の栄養士の献立を参考にしたり研修での指導を受け、利用者に適した食材選びから調理法栄養バランスに配慮している。また一日一回は玄米を取り入れ、便秘予防に努めている。園内の畑で採れる新鮮な野菜を使用し利用者が季節感を持てるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに応じた食後の歯磨き、義歯の洗浄支援を行っている。上手く歯磨きを行えない利用者には時間がかかっても自力で行ってもらい、職員が仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックに基づき定時のトイレ誘導や外出前後のトイレの声掛け、誘導も行っている。又利用者の排泄サインをつかみ失禁を減らすように努めている。特に利用者の失禁状況の把握に努めパットや紙パンツの減少にも努めている。	排泄パターンや生活習慣等に応じて前誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。利用者の中には、リハビリパンツから布製下着への改善や自立も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一食屋食には玄米を取り入れ、食物繊維の多い食材を使用するようしている。又、十分な水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきの入浴を基本にしなが、利用者の要望で毎日入浴したりしている。又入浴しない日は清拭・足浴を行い入浴気分を感じてもらい、同時に清潔の保持に努めている。	基本的には、2日に1回の入浴としているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴日以外は足浴と清拭を行っている。入浴を嫌がられる場合には、気分転換を試みたり、担当者を交代する等工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂き、利用者の体調や気分によって、昼寝や休息をして頂くようにしている。季節に合った室内温度や寝具を準備し、入眠を促している。寝具は週に一回交換し、清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬説明書と受診後の看護記録への記入をすることで、薬の変更にも職員間でコミュニケーションを図り対応、理解している。また、医師、看護婦との相談のうえ、症状の変化の確認をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、各利用者の生活歴や残存能力を生かしながら一緒に行い、楽しさの共有ができ、生きがいのある毎日を過ごされるようにしている。又、カラオケ・買物・ドライブ・レクリエーション等を取り入れ、利用者職員みんなで楽しく過ごす支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、一回は外出する機会を設け、季節の行事見学・花見見学や弁当を持つての外出などを、利用者の希望や職員からの提案に沿っての外出も支援している。	利用者の意向や体調等にも配慮しながら、積極的に外出支援を行っており、毎日1回は外出の機会をつくっている。同一法人内のデイサービス等での音楽療法やカラオケに出かけたり、買い物や散歩等利用者の楽しみになっている。また、季節の花見や外食等での外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持すると安心される方には自己管理して頂いている。能力に応じて利用者が買物できるよう職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望に関しては、本人の希望に添えるように対応している。手紙や年賀状は利用者の能力に応じて作成や代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には転倒防止のため、手すりを設け清潔に保つために毎日清掃を実施、又、月1回清掃日を決め徹底を図っている。季節の花を生け、季節間を味わっている。	民家の持ち味を活かした造りの玄関や台所・居間等の共用空間には、安心感のある家庭的雰囲気が漂っており、家具や調度等も生活感のあるものが置かれている。玄関やトイレ等には季節の花も飾られている。エアコンの掃除をこまめに行い、空気の清浄化にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごして頂く利用者の「輪」に職員も参加し快適に過ごして頂くと共に体調変化にも配慮している。面会時には必要に応じ利用者の部屋で面会して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室がわかるように顔写真を掲げている。居室への持ち込みは家族写真や愛着を持たれていた品物を自由に持ち込まれ居心地よく過ごせるように配慮している。	居心地の良い居室づくりを支援しており、利用者の状態や希望に応じて、布団またはベッドを使用している。それぞれの居室には、家族の写真や鏡台・筆筒・飾り物等使い慣れた物や好みの物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等に手すりを設け自分で安全に移動できるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない